令和４年度　第56回　中学生の「税についての作文」
町田市長賞

『税に背中を向けないで税と向き合おう』

町田市立成瀬台中学校　３学年　松木　一真

僕たちの納める税金が国境を越えて活躍していることをみなさんは知っていますか。

国の収入源は税金です。しかし日本は多くの国債という重荷を背負っています。そんな状況の中、日本は発展途上国への支援を行っています。消費税から生まれる経済協力費を使用し貧しい人や病気を持つ人など助けを必要とする多くの人を救うというものです。

「まず自国の充実が先なのでは。」

そんな声も少なくないかもしれません。しかし僕は国内だけでなく世界中のどこまでも救う日本を含め先進国の税制度を誇りに思います。そして自分が納める唯一の税、消費税が人を救うとは。消費税なんてお小遣いがもったいない、と思っていた自分がとても恥ずかしくてたまりません。同時に自分も尊い命を救う協力ができていると思うと何だか血が騒いできます。僕のように消費税は自分自身が助けを求める人々へ差し伸べられる命綱であることを日本中の人が知れば積極的に税を納めてくれる人が多く増えるに違いありません。また、そんな人たちの購買意欲が高まることによって、その分十分なお金を稼ぐために、より精一杯働きます。それによって経済がよく回り景気が良くなります。この流れにしたがって国の充実へと発展していけることでしょう。

この上昇気流に乗るためには、やはり税に対して日本中の人々が関心を持ってもらうことが大切だと思います。それを実現させる大きな取組みがあります。それは「税を考える週間」というものです。現状、税金の話題に背中を向けてしまっている人がたくさんいると思う。

そんな人たちを振り向かせる「税を考える週間」とは毎年十一月十一日から十一月十七日までの一週間、税金を納める意味や、税金の使い道など税の理解を深めていくことです。この期間はメディアで税についてたくさん取り上げられるので国民が税に関心を持つ可能性が高いです。まさに、税のゴールデンタイムです。そんな「税を考える週間」が日本中に広まることによって多くの人々に「税を考える習慣」をつけてもらえるのではないかと思います。

税金を納めることへの意味を理解することで僕にも気持ちの変化がありました。食べ物を買いに行ったときのことです。「一〇八円になります。」そう店員さんに言われると僕は一〇〇円の価値より八円の価値の方が大きいと思いました。商品の価格一〇〇円。人を救う協力となる八円。そう考えることができるからです。これは僕も税の作文を書くにあたり税金の仕組みや目的を知ったからこそ思えたことです。

ちりも積もれば山となる。この言葉のように税金も集まると、世界中の人を救う大きな物となります。その一つの星となれるよう僕はこれからも税と向き合いたいと思いました。